

## 1 須佐地区の概要

### (1) 佐田町について

出雲市の最南端東部に位置する山間地域で、人口 3,497 人、世帯数 1,199 世帯、少子高齢化、過疎化の進む地域である。

伝統文化が盛んな町で、県内外で活躍する「出雲歌舞伎 むらくも座」「さだ須佐太鼓」を始め、9つの神楽の団体また民謡・舞踊団体などがある。

佐田町には須佐地区と窪田地区とあり、それぞれに保育所、小学校とコミュニティセンターがある。中学校は、佐田町に1つ、高校は平成27年3月に閉校し、67年のあゆみに幕を下ろした。

### (2) 須佐地区について

須佐地域の面積は約 62 km<sup>2</sup>で、85%が山林の山間地域であり、民家が点在している。人口 1,985 人、世帯数 659 世帯、高齢化率 39.8%の少子高齢化の進む地域であり、6つの振興協議会からコミュニティが組織されており、その下に30の自治会がある。

観光地として、須佐之男命を祀り、本殿は大社造りの建物で、須佐の七不思議などの伝説がある須佐神社。隣接して、スサノオ伝説ゆかりの地に湧く、出雲須佐温泉ゆかり館。夏でも10度前後の冷風を吹き出す八雲風穴。興亡変転の城、高櫓城の馬場を利用して作られた目田森林公園などがある。

## 2 事業の趣旨

### (1) 現状

- ア 地形的に集団行動がとりにくい。
- イ 行政からハザードマップが全戸配布されているが、住民の理解度は低い。
- ウ 住民の災害に対する意識は行政依存度が高く、住民の防災意識が低い。

### (2) 目的

- ア 自助・共助の観点から、万が一の時には自らの身は自ら守るという住民1人ひとりの意識改革を行う。
- イ 地域の要支援者は、地域住民の連携で守る体制づくりを図る。
- ウ 万が一の時のために飲料水の確保と炊飯の仕方を学び、地域で生き延びる手法を率先して考え行動するリーダーの育成。また、災害時に対応できる地域人材の確保を行う。

## 3 具体的な取組内容

### (1) ステップ1

地域内の自治会に出かけてGISを活用し、県で作成された土石流、急傾斜の警戒区域、特別警戒区域を各戸ごとに説明会を行い、地域に潜む危険を住民に認識してもらい万が一の時の参考にしてもらう。



(ステップ1 出前座学講座)

### (2) ステップ2

- ア 専門知識を持った防災士の方と住民と一緒に実際に地域内を歩いて危険個所を調査する。



(ステップ2 防災士と住民との現地調査)

イ その調査結果を再びGIS地図上に加え、再び自治会に出向き地域の危険情報を住民に知らせ危険情報を共有化し、新情報を入力したハザードマップを各戸へ配布する。



(新情報入力ハザードマップ説明と協議)

### (3) ステップ3

自治会住民で作り上げた独自のハザードマップを基に避難訓練の実施と要支援者に対する支援手法を確認する。

また、住民自ら共同して飲料水確保する事、炊飯器以外のものでご飯を炊く手法を日頃から学んでおくため、実際に谷水を利用し、スーパーデリオスを使い飲料水を作り、その水で炊飯訓練を行う。



(飲料水確保)



(炊飯訓練)

## 4 評価と成果

(1) ステップ1の取組は22自治会、ステップ2の取組は16自治会と少しずつ浸透していった。

(2) 住民意識の変化がみられる。

ア 日頃から地域内の絆を深めておかなければ、いざという時に迅速な行動が難しい事に気づきがあり、地域共同意識が芽生えはじめた。

イ 災害に対する住民の意識の向上で、日常会話の中に、危険個所の話題が加わるようになり、災害時に自治会内で

どう行動するかなど認識し合う動きが出だした。

ウ 自分たちの手で取り組まなければいけないという意識の変化がみられるようになった。

エ 毎年繰り返し取り組まねばいけないという思いが出てきた。

### (3) ハザードマップの充実

地域の危険個所の認識、自宅周辺についての危険個所の認識ができた。

## 5 今後の課題と見通し

(1) 地域により事業の進度に差異が生じているので、足並みが揃うような仕掛けを考えていきたい。

(2) 自助・共助が深まり、防災だけではなく、全ての地域づくり・地域活動において、お互いを思い合い、助け合って暮らせる安心安全なぬくもりのある地域を目指したい。

(3) 要支援者に対しての、地域住民との連携体制の強化を図っていかなければならない。

(4) さらにこの活動を持続し、地域で考え行動するリーダー育成、また災害に対応できる人材育成につとめる。

(文責：センター長 大崎 強)